

I - 1. マイキープラットフォーム構想とは何か

資料1

マイナンバーカードを活用し、公共施設などの様々な利用者カードを一枚にするるとともに、各自治体のボランティアポイントや健康ポイントなどをクラウド化(飛躍的な低コスト化)することに併せ、クレジットカードなどのポイントやマイレージを地域経済応援ポイントとして全国各地に導入・合算し、様々な住民の公益的活動の支援と地域の消費拡大につなげる。

①公共施設などの利用者カードがマイナンバーカード1枚に

- マイナンバーカードは、既に十分な本人確認機能を有しているため、様々な利用者カードに記された利用者番号をマイキープラットフォームに登録しておけば、図書館の窓口等でマイナンバーカードを活用してマイキープラットフォームからその窓口で必要な利用者番号を呼び出すことで、様々な利用者カードとして活用することができる。利用者にとっては、様々な利用者カードをマイナンバーカード一枚にまとめることができる。また、自治体等にとっては、多くの種類の利用者カードを発行する必要がなくなる。

②住民活動を支援する自治体ポイントをクラウドで管理

- 自治体の各部各課で付与しているポイントを当該自治体の自治体ポイントとして共通化し、デジタルポイント化して1回分のポイントからでも使えるようにした上で、商店街等との精算業務も容易にするため、ポイント管理システムを構築。これをクラウドサービスとして提供すれば、飛躍的にコストが低下し、各自治体ごとにローカルシステムを構築する必要もない。

③クレジットカード会社等のポイントやマイレージを地域に導入して消費拡大を図る

- クレジットカード会社等のポイントやマイレージをできるだけ多く転換してもらえば、それは当該自治体内の消費拡大に直結する。地元の商店等での販売に使うほかに、オンライン販売を活用して、地元の名産等を扱うこともできる。なお、企業ごととなっている各応援会社のポイントやマイレージは、特定の自治体ポイントに合算して使うことができる。例えば、期限切れが迫った複数のポイントやマイレージを特定の自治体ポイントに合算して集めておいて使うことができるので、消費者の利便性の向上も期待できる。